

## 従業者向け

## 放課後等デイサービス評価表

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境 ・ 体 制 整 備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・パーテーションを利用して利用者のスペースを分けている。 ・利用定員に合わせたお部屋の振り分けが出来ている。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・ご利用人数に合わせて配置を考えている。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・バリアフリー化は出来ていないが、今後もっと個々が活動しやすいように工夫していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎朝の清掃や消毒で清潔な環境に整えられるようにしている。また活動に合わせた空間づくりを、その都度考えています。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・個別療育を行つ時にパーテーションを使ったり、2階で運動療育などの個別対応をしている。
業務 改 善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		・職員全員が意見を出しやすい場づくりを行い、改善案を共有してPDCAに反映する仕組みを整えている。 ・日々の振り返りを短時間で行えるよう工夫し、気づきをすぐPDCAに生かせるように情報共有の方法を統一している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・子育てサポートや家族支援を行い毎月1回～4回保護者とお話をする機会を設けている。 ・より良い支援が実施できるように、職員全員で話し合う時間を作っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・定期的に意見交換の場を設け、職員の声を拾い上げて業務改善の検討や取り組みに反映している。 ・アンケートやミーティングで職員の意見を把握し、その内容を分析して具体的な業務改善策に結びつけている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		・現時点では第三者による外部評価は実施していないが、今後の業務改善につなげるため、実施方法や時期を検討している。 ・業務改善に役立つ情報として活用出来るように、今後に向けて検討している。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・意見や気づいた事については朝礼時に職員や管理者に伝え話し合う。 ・外部研修の受講や法人内研修の開催など、職員が学びを深められる機会を設けている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・提供している支援内容やプログラムを分かりやすく整理し、利用児や保護者に向けてホームページにて公表している。 ・支援プログラムの目的や内容を明確に示し、公開している。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		・丁寧なアセスメントを行い、保護者の意向や利用児の課題も踏まえて総合的に分析し、適切な計画作成に繋げている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・作成した放課後等デイサービス計画は、職員間で適切に共有され、内容に基づいた一貫した支援が日常的に実践されている。 ・計画は全職員が確認できるように整備されており、支援計画を共通理解した上で、支援を行っている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・計画書ができる際にサービス提供支援者会議にて、共有し意見を出し合い、確認を行っている。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		・アセスメントシートや支援シートなどを確認する等、必要な支援内容の把握を職員同士で行っている。

適切な支援の提供	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・放課後等デイサービスガイドラインで示されている本人支援、家族支援、移行支援、地域支援の視点を踏まえ、お子さまの状況に応じた必要項目を適切に設定し、具体的な支援内容を計画に明確に示している。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・活動プログラムは職員同士で意見を出し合い、子どもの特性やニーズを踏まえてチーム（保育士・専門職員等）で協力しながら多角的な視点から立案を行っている。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・活動プログラムが偏らないように、季節行事や利用児の興味を取り入れながら内容を定期的に見直し、新しい活動も積極的に取り入れている。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		・利用児の特性や課題を踏まえて個別活動と集団活動を適切に組み合わせ、計画に反映した上で、日々の支援に繋げている。
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・支援終了後の振り返りだけでなく、絆プラスでは毎朝の朝礼やフィードバックの時間を通して、前日の支援内容や気づき、改善点を職員間で確実に共有している。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・支援前の打ち合わせで支援内容の確認を行い、支援後の振り返りは翌日の朝礼やフィードバックで職員全員が共有する体制を整えている。絆プラスではこの流れを習慣化し、日々の支援の質向上に繋げている。
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・使用している専用ソフトに毎日の支援記録を入力し、その情報を基に支援の検証をや改善に繋げるよう徹底している。
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・定期的にモニタリングを実施し、利用児の状態や支援状況を確認した上で、必要に応じて支援計画を見直し、適切な支援に繋げている。
	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8		・ガイドラインで示されている基本活動をバランスよく組み合わせ、利用児の発達段階やニーズに応じた領域別の支援を計画的に実施している。
	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		・利用児自身が選択、判断出来るような活動設定や声かけを工夫し、主体性を育む支援を行っています。発達領域を意識した支援を通して、生きる力の育成に取り組んでいます。
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・関係機関との会議には、利用児の支援に深く関わる職員が交代で参加し、適切に意見が伝えられる体制を整えています。学校の担任の先生や相談支援員の方々と、話し合いながら情報共有を行い、検討している。
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		・現時点では関係機関との連携体制は整備途中だが、地域の保健、医療、福祉、教育機関との協力を強化出来るように、今後体制づくりを進めていく予定である。
	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・学校のホームページなどから年間計画や行事予定を把握し、支援に必要な情報を整理している。また下校時刻の変更などは保護者から確実に連絡を受け、適切に調整しているほか送迎時の対応やトラブル時の連絡も丁寧に行っている。
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		・小学校1年生など就学前の利用児について、それまで通っていたこども園等に聞き取りに調査に伺っています。支援に必要な情報共有の協力を頂いています。
	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		・これまでに放課後等デイサービスから障害福祉サービスへの移行事例はありませんが、今後必要が生じた際には、これまでの支援内容や取り組みの様子を関係機関へ適切に共有できるようにします。
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		・地域の児童発達支援センターが開催する研修に積極的に参加し、支援の質向上に役立てています。また必要に応じて助言を頂けるような体制を整え、継続的なスーパーバイザーにつながる関係を築いて行きたいです。
	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	8		・児童クラブや児童館との交流は現在は無いが、地域の公園や図書館出向き、そこで出会う子どもたちと自然な形で関わる機会は設けています。
	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	8		・案内いただいた自立支援協議会等には、職員が積極的に参加できるようにし、地域の情報収集や連携強化に努めています。

保護者への説明等	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	・モーターアクティビティや個別相談の際に家庭での様子を丁寧に伺い、利用児の状況を保護者と共有している。また、家庭での対応方法についてアドバイスを行い、発達や課題に対する共通理解を深めています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	・今後の検討項目としている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	・契約時に運営規定や支援プログラム、利用者負担について丁寧に説明し、保護者が安心して利用出来るように十分な理解を得られるよう努めている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	・契約時やアセスメント時に、利用児と保護者の希望や考え方を詳しく伺い、関係機関への聞き取りも行いながら情報を整理しています。 ・最善の利益を最優先にした支援が行えるよう、利用前に意向をしっかり確認させて頂いています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	・支援計画の本案が完成した段階で、保護者に内容を説明し、理解と同意をいただいている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	・家族支援、子育てサポートの一環として保護者に来所頂き、子育ての悩みや相談に丁寧に応じている。必要に応じて面談の場を掛け、助言や支援を行えるように話し合いの時間を設けています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	・現在は保護者会の開催は行っていないが、今後、事業所内で保護者同士が交流できる場づくりについて検討を進めている。また兄弟同士が関わる機会についても、必要に応じて取り入れられるよう検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	・糾プラスでは苦情に対応するための体制を整え、周知も行っています。苦情が寄せられた場合には、迅速かつ丁寧に対応し、改善につなげるように努めています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	・Instagramを積極的に活用し、活動の様子や行事予定などの情報を保護者に向けて発信しています。これにより、日々の支援内容や連絡体制が分かりやすく伝わるように努めています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	・個人情報の取扱いに最新の注意を払っています。法令や内部規定に基づいて適切に管理しています。Instagramに撮影した写真も、使用後は必ず削除するなど、情報管理に十分配慮しています。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	・障がいのある利用児や保護者が安心して利用できるように、分かりやすい説明や確認を心がける等の意思疎通や情報伝達に配慮しながら支援を行うように努力しています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	・現在は地域住民を招待する行事は実施していないが、今後は近隣のデイサービス施設の高齢者の方々と一緒に、お花見会を開催する等、地域に開かれた活動を検討している。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	・マニュアルの策定をしており、定期的に訓練を実施している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	・BCPを策定しており、訓練を行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	・契約時に保護者に確認し、職員間で情報共有を行っている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	・食物アレルギーの利用児はいますが、医師の指示書が必要なレベルのアレルギー児は現在はいません。またおやつや行事の外食などは必要なアレルギー対応は行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	・計画の作成や研修、訓練は定期的に実施されています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	・常に安全に活動できるように取り組んでいるが、「安全計画に基づく取り組み内容」を保護者様には契約時に重要事項説明書にて周知させて頂いている。 ・セコムの設置等をインスタグラムで配信している。 ・児童をお送りした際や連絡帳などを通じて必要事項は周知している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	・日々の支援で発生したヒヤリハットを事業所内で共有し、原因や背景を振り返りながら再発防止に向けた対策を職員間で検討している。

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・虐待防止委員会を開催し、職員の研修へとつなげています。また各部屋にセコムカメラを設置し、事業所内（管理者）と事業所外（本社）が常に療育状況が確認できるようにしている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		・保護者の同意を得た事が確認できる書類がある。 ・指導計画に、やむを得ず身体拘束が必要な時の文言を記載し、保護者の同意を得ている。